

< 今日の説教のポイント 出エジプト記 19 章 10～25 節 >

1 (19:1-9) 出エジプトの出来事 — 救いの神様との出会い。

これまで、神様がエジプトの奴隷となっていたイスラエルの民をモーセによって救い出された所まで読んで来ました。そこで神様がなされたことが今日の箇所から始まります。それが 9 節にまとめられています。

「主はモーセに言われた。『見よ、わたしは濃い雲の中にあつてあなたに臨む。わたしがあなたと語るのを民が聞いて、いつまでもあなた(モーセ)を信じるようになるためである』(9)です。言い換えると、民が神様を直接見ることは最初から考えられていないのです。これが今日の箇所を読む際のポイントです。

2 (10-25) 同じことが 3 度繰り返し語られている。大事なことは 3 つ。

9 節で神様がモーセに告げられたことが実行されていく次第が 10-13 節、14-19 節、20-25 節で告げられていきます。そこで共通して強調されている点に目をとめることが大事です。それは、「①三日間かけて、②自らの身を清め、③神様が降られる山に登らない」、ということです。①～③から今の私たちにも呼びかけられている大事なことが見えてきます。

3 自分勝手な方法でなく、神様が選ばれた方法を重んじて歩む。

今の私たちが気をつけなければならないことを見出しに書きました。「③神様が降られる山に登らない」(21 節参照)は、神様を自分の仕方では理解できるとするのは神と人の違いを軽視し、神と人の境を超えることであり、謙虚になるべきであることを教えられます。では、神様が私たちに与えて下さった神様を理解できる方法は何でしょうか。まずはイエス・キリストを通してです。「この方こそ、『あなたがた家を建てる者に捨てられ、隅の親石となった石』です。この人による以外に救いはありません」(使徒言行録 4:11-12)。次に、この後の 20 章で、モーセを通して十戒の御言葉を大事にすることが、神様を直接見るのではない、神様から与えられた道(方法)となったことに注目です。今の私たちには、主の教会の礼拝で御言葉の解き明かしに耳を傾ける道が与えられたことを考えなければなりません。「①三日間かけて、②自らの身を清め」は、私たちが礼拝に出ることにどれだけ心と体の準備をして参加しているかを考えさせられます。旧約の人々は「衣服を洗い」(10, 14)しました。今の私たちには礼拝に与り「キリストを着る」(ロマ 13:14、コロサイ 3:10、ガラテヤ 3:27)方法が用意されたのです!